

令和2年度
事業計画書

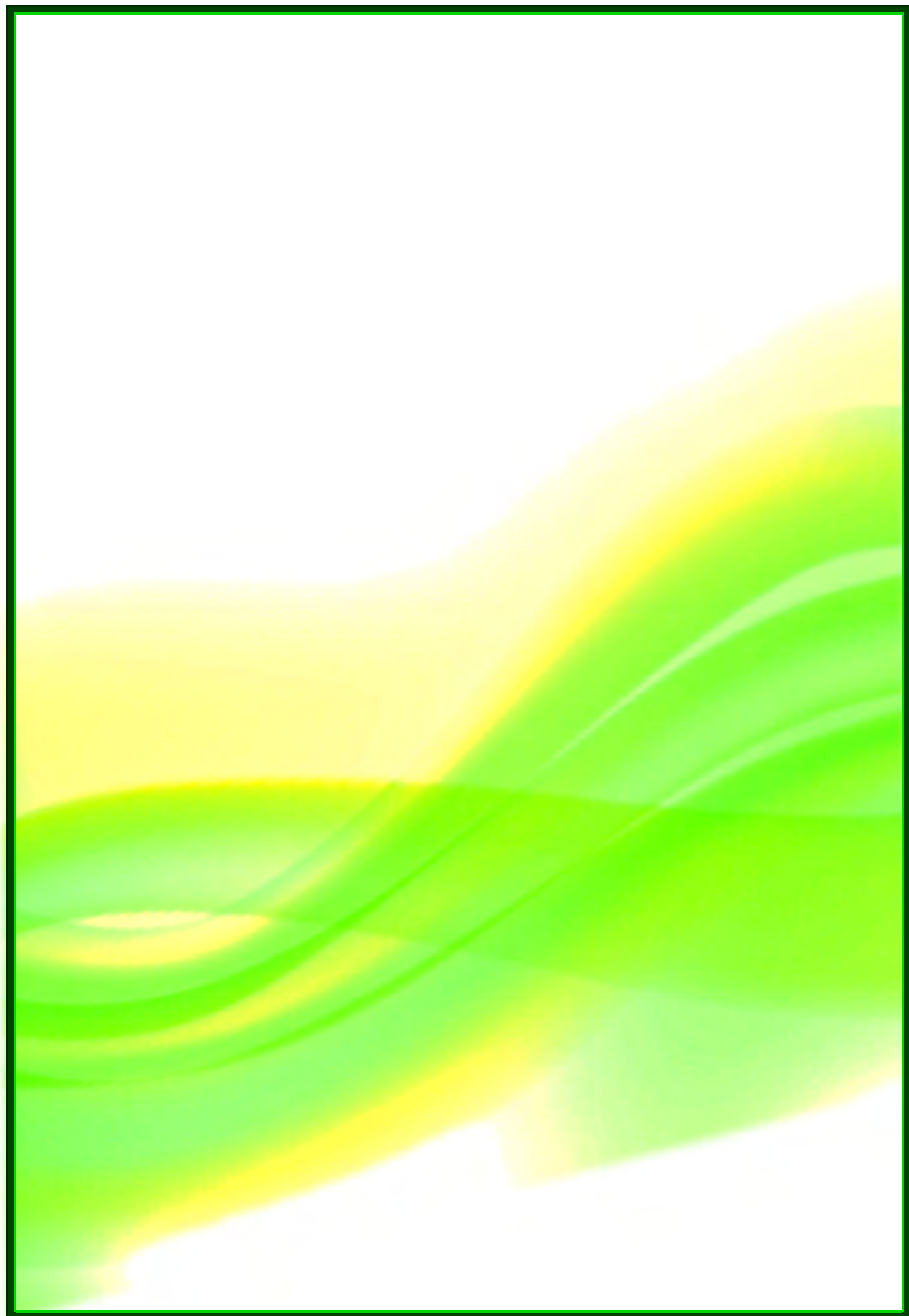
令和2年4月1日～令和3年3月31日



川のがっこう 特別編（滝野自然学園）



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



目 次

I	経営理念	1
II	基本方針	1
III	事業計画策定の基本方針	1
	1 社会課題解決に対応した事業内容の積極展開	
	2 他部門・他団体との業務連携等の推進	
	3 未来ビジョンに基づく事業の展開	
	4 既存業務のシステム化の推進	
	5 部門別事業収支の適正化	
IV	事業概要	3
	1 青少年の健全育成と社会参加に関する事業	
	2 社会教育の推進に関する事業	
	3 市民活動の振興に関する事業	
	4 その他法人の目的を達成するために必要な事業	
V	SYAA×SDGs	5
VI	部門別事業計画書	7
	1 児童会館・ミニ児童会館	〈 7～ 8〉
	2 やまびこ座・こぐま座	〈 9～10〉
	3 若者支援施設	〈11～12〉
	4 滝野自然学園	〈13～14〉
	5 北方自然教育園・定山溪自然の村・青少年山の家	〈15～20〉
	6 札幌エルプラザ公共4施設	〈21～22〉
	7 イベント事業	〈23～24〉
VII	基金事業	25
VIII	機構図	26
IX	施設一覧	27

令和2年度 事業計画

I 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与します。

II 基本方針

1. 青少年の健全育成と社会参加の実現に寄与する
2. 市民活動の振興及び社会教育の推進に寄与する
3. 将来を見据えた組織力の強化を図る
4. 自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により安定した法人経営を行う
5. 組織の活性化・効率化に向けた改革を行う

III 事業計画策定の基本方針

1. 社会課題解決に対応した事業内容の積極展開
2. 他部門・他団体との業務連携等の推進
3. 未来ビジョンに基づく事業の展開
4. 既存業務のシステム化の推進
5. 部門別事業収支の適正化

Ⅲ 事業計画策定の基本方針 <内容>

(1) 社会課題解決に対応した事業内容の積極展開

財団が継続して事業活動を行うために、様々な社会課題の解決に繋がる事業を提供し、社会に必要とされ続けることが重要である。持続可能な開発目標（SDGs）等、社会課題の解決への貢献に企業等の意識が高まっている現状にあつては、社会のニーズをいち早く察知し、当財団の目的を達成するための事業を積極展開していく必要がある。また、指定管理事業等の複数年度の契約締結をしている事業にあつては、履行状況や成果・効果について様々な角度からの検証し、先を見据えた事業展開を図る必要がある。

各事業部門においては、既存事業の発展及び新規事業の展開によって、より効果的な事業価値の創出を念頭に置いた事業計画を策定すること。

(2) 他部門・他団体との業務連携等の推進

財団の目的を達成するため現行事業の更なる充実を図るにあたっては、各事業部門の優位性を持って、他部門や関係機関等との幅広い情報交換や業務連携を進める必要がある。現行の事業実施方法に過度に拘らず、各事業部門の横断的な事業の取り組みや広範な課題に取り組む様々な団体との連携により、財団事業の価値の拡大を念頭に、他部門・他団体と積極的な連携を念頭に置いた事業計画を策定すること。

(3) 未来ビジョンに基づく事業の展開

令和2年度は、当財団の設立から40周年を迎える年度となる。財団が目指す未来社会の創造にあつては、当財団の設立趣意や目的などを大切に守りつつ、前年度に各事業部門で設計している将来像である「未来ビジョン」に基づき、今年度を初年度として中期的に推進していくための行動を具現化していく必要がある。

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を担ってきた財団事業の実績を継承し、さらに発展させていく取り組みが重要となることから、当財団の設立趣旨や定款に基づく事業展開を意識し、各事業部門においては、具体的な行動計画を盛り込んだ事業計画を策定すること。

(4) 既存業務のシステム化の推進

各事業部門および管理部門に付帯する受付業務や事務的作業など、既存の定型・定例業務に費やす人員や時間は今なお一定の数量が存在する。人との関わりを大切にした事業展開を行う当財団事業にあつて、この時間を十分に確保するためには、定型・定例業務の作業方法の省力化や簡略化に繋がる取り組みを一層加速させることが、これらの課題に対応するためにも重要となる。

定型業務や定例事務における通信技術を活用したシステムやツール等の導入を推進するなど、昨年度に引き続き既存業務の作業時間短縮や省力化に繋がる取り組みを積極的に取り組むこと。

(5) 部門別事業収支の適正化

公益財団法人として求められる「財政基盤の明確化」や「財務管理の適正性」は、公益認定法に定められた経理的基礎の主要な要素である。当財団事業の多数を占める指定管理事業は、現行の契約期間における事業収益等の今後の推移が概ね見込める現状ではあるが、事業実施にあたっては、各事業収益に見合う人員配置、費用をもって事業運営を行うことが必要となる。

効率的で効果的な事業運営を意識した事業計画の作成と契約期間の収支バランスを意識した事業収支の適正化を図ること。

IV 事業概要

- 【定款第4条】 （１）青少年の健全育成と社会参加に関する事業
（２）社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

（１）青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

（２）体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

（３）施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

（１）体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等

（２）受託事業

- ・地域若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

（３）調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

（４）施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

（１）滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業
- ・団体支援事業 ・施設管理運営事業

（２）北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

（３）定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

（４）青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

【定款第4条】 （3）市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|-----------|------------------|-------------|
| （1）活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業 | ・ 市民活動関連事業 |
| | ・ NPO活動支援事業 | ・ 相談 ・ 支援事業 |
| （2）職員派遣事業 | ・ 大学、専門学校他への職員派遣 | |
| （3）情報発信事業 | ・ 各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 （4）その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業

他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、
公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、
定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業

2020年。
より良い社会の実現を目指し、
責任ある行動を。



SDGsとは

2015年、国連は持続可能な世界を実現するため、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を定め、17の目標を設定しました。

政府・企業・自治体・そして私たち一人ひとりが、未来の世界をより良くするために協力しあい「誰も置き去りにしない」世界を目指すための行動目標です。



2020年度 × SDGs

私たちはこれまで、子どもから大人まで、さまざまな方を対象に、学習機会や自然体験に関わる機会の提供、生活困窮世帯への支援、ジェンダー平等や自然環境の保全に向けた啓発活動など、幅広い活動を行ってきました。これらの事業活動を通して目指すものは、国連が定める「SDGs」が目指すものと同じ「より良い社会の実現」です。そのため、私たちが事業の発展に向けて邁進することそのものが、SDGsの達成に直接つながると考えています。

2020年度、SYAAは40周年という大きな節目を迎えます。今後も、SDGsの達成に向けて取り組むすべての人とともに未来がより良くあるためにできることを考え、責任をもって行動していきます。



経営理念 × SDGs

SYAA の定款に掲げる目的と密接に関連している目標は「目標 4. 質の高い教育をみんなに」と「目標 11. 住み続けられるまちづくりを」で、これらは各施設が行う事業において共通して取り組んでいるものです。また、全ての事業活動に必要な共通の考え方として「目標 17. パートナリーシップで目標を達成しよう」を位置づけています。



4 つの事業 × SDGs

【1. 青少年の健全育成と社会参加に関する事業】

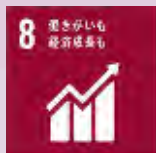


- ・児童会館・ミニ児童会館
- ・やまびこ座・こぐま座
- ・若者支援施設
- ・滝野自然学園 (p7～14)



【2. 社会教育の推進に関する事業】

- ・北方自然教育園
- ・定山溪自然の村
- ・青少年山の家 (p15～20)



【3. 市民活動の振興に関する事業】

- ・札幌エルプラザ公共 4 施設 (p21～22)

【4. その他法人の目的を達成するために必要な事業】

- ・イベント事業 (p23～24)



VI 部門別事業計画書

こども事業課・こども育成課

児童会館・ミニ児童会館

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともにつくります

多種多様な状況や価値観を認め合い、子どもたちが自分らしく過ごせる居場所づくりを進める。また、あそびや体験等の主体的活動を推進するとともに、地域・関連機関・保護者等と連携し、子どもたちの心身の育ちの場を広げる。

児童会館一体管理のスケールメリットを活かした効率的な運営の推進と、併せて、経費削減に努め、計画的な予算執行に取り組む。

重点目標

地域活動等事業

①学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「遊学舎まなべえ」）において、生活困窮世帯の中学生を対象に、高校進学を促進する。併せて、若者支援事業課と連携し、中学校卒業後の支援に向けた取り組みについて推進する。

②子どものくらし支援コーディネート事業において、困難を抱えている子どもや家庭を早期に発見し必要な支援につなげるコーディネーターを配置し、子どものくらしを支える相談支援体制の充実を図る。

施設運営等事業

こども事業課

①各種企業・団体との連携体制を強化する。②事業収支の適正化を図る。

こども育成課

①ビジョン・ミッションの再設定を行い組織力の向上を図る。

②未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。

③子ども運営委員会の役割や効果を再検討し、意見表明や自己実現をとおした成長の機会につなげる。

④全道・全国との連携を強化し、児童館行政の動向把握と将来構想へ向けた取り組みを行う。

⑤安心安全な施設運営の強化を図る。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

こども育成課	令和2年度	3,970,000人以上	令和元年度	3,972,590人(見込)
--------	-------	--------------	-------	----------------

②事業プログラム参加者総数

こども事業課	令和2年度	500人以上	令和元年度	610人(見込)
こども育成課	令和2年度	920,000人以上	令和元年度	928,460人(見込)

③利用者アンケートにおける満足度

こども事業課	令和2年度	4以上(5段階評価)	令和元年度	未実施
こども育成課	令和2年度	80%以上	令和元年度	実施予定(3月)

【部門目標】

①各種企業・団体等、新規関連ネットワーク団体との連携

こども事業課	令和2年度	5団体以上	令和元年度	10団体(見込)
--------	-------	-------	-------	----------

②地域連携事業の実施

こども育成課	令和2年度	2回以上/年(1館) 1,000回/年(全館)	令和元年度	4.9回/年(1館) 992回/年(全館)(見込)
--------	-------	----------------------------	-------	------------------------------

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ事業 ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「遊學舎まなべえ」） ・子どものくらし支援コーディネート事業 ・子育てサロン事業 ・中・高校生夜間利用等運営事業「ふり→たいむ」 ・児童会館実習指導業務 ・子ども運営委員会（全館統一事業） ・他課連携事業 ・藤女子大学提携事業 児童英語プログラム ・調査・研究事業 他 	※実施時期・回数については各会館により異なるため省略 
2 体験機会創出事業 <ul style="list-style-type: none"> ・体験機会フォロー事業 ・興味・関心創出事業 ・社会参加・貢献啓発事業 ・おかげさまで60周年～ありがとう！新生児童会館60周年を祝う会～ ・講習会・発表会（各種講座・クラブ活動発表会等） ・親子講演会 ・鑑賞会（人形劇、読み聞かせ、映画、ビデオ上映等） ・社会奉仕活動（ゴミ拾い、施設訪問、防犯・防火活動等） ・交流事業（世代間・地域交流、お泊り会等） ・リーダー育成事業 ・季節行事・パーティー（歳時事業、お祭り等） ・野外・自然体験活動（キャンプ事業、畑づくり、遠足、登山等） ・伝統芸能活動（伝承あそび、生け花、茶道・将棋・華道教室等） ・体力増進・スポーツ（日常あそび、外遊び、一輪車等） ・学習活動（学習レシピの活用等） ・創作活動 ・読書活動 ・環境活動 ・合同事業 ・外部連携事業 ・NPOとの連携事業 ・周年事業 ・広報活動 	 
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童会館運営に関する事業、貸室事業、危機管理事業等 	

児童会館・ミニ児童会館

×

SDGs



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

他 1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり

事業方針

こども劇場は、子ども文化の鑑賞、発信、創造拠点として地域に愛され、子どもたちをはじめ多くの市民の可能性を育む場所として使命を担ってきたが、子どもたちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化しており、子どものための専門劇場としての社会的役割は、今後益々重要になると捉えている。

培ってきたノウハウを生かし、地域のための親しみある文化施設として多くの市民が集い合う場を創りあげることで、新たな事業展開へとつなげていく。

また、中島公園周辺地域における新MICE施設建設後の変革を視野に入れ、札幌の観光新興の一翼を担うべく事業展開、将来展望についても積極的に取り組んでいく。

地域活動等事業

劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを応援し、人や地域の活性化につなげる。

重点目標

施設運営等事業

- ①人形劇、児童劇等の裾野を拡げていくため、人材育成を柱に、時代のニーズに合わせ継続的かつ発展的な事業展開を行う。
- ②札幌の子ども文化の創造・発信拠点としての中心的役割を担う。
- ③歴史的価値の高いやまびこ座、こぐま座、中島児童会館の3施設による連携を図り、子どものための専門施設として、より効果的な運営を実現する。
- ④指定管理費と併せ、公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開を図る。
- ⑤全国的にも数少ない子どものための公立文化施設として、文化力による社会的役割を明確にし、未来ある子どもたちの夢と可能性を拡げていく。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和2年度	90,000人以上	令和元年度	95,000人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

②事業プログラム参加者総数

令和2年度	30,000人以上	令和元年度	36,000人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度



令和2年度	85%以上	令和元年度	99%(見込)
-------	-------	-------	---------

【部門目標】

- ①やまびこ座 年間上演日数 120日・公演数 200回以上(令和元年度見込 130日・198回)
こぐま座 年間上演日数 120日・公演数 200回以上(令和元年度見込 130日・207回)

②中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室『MA・SO・BO』年間利用者人数

令和2年度	12,000人以上	令和元年度	12,000人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 (1) 人材育成事業 (一般対象) <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者のための人形劇講座、経験者のための人形劇講座 ・ 東区市民劇団育成事業「オニオン座」 ・ 人形浄瑠璃講習会 ・ 義太夫講習会 (一般クラス) ・ 人形浄瑠璃体験ワークショップ ・ 指導育成事業 砂川人形劇創作体験プログラム ・ 舞台スタッフ指導事業 ・ 劇団育成支援事業 ・ 中島児童会館一体連携事業「こどものまなび塾」「こどもの文化セミナー」 (2) 人材育成事業 (子ども対象) <ul style="list-style-type: none"> ・ 第28期 やまびこ座遊劇舎 ・ 第18期 劇☆やまびこ座 YOUTH ・ ざ・にんぎょうじょうりゆうユースクラス ・ こぐま座こども人形劇団 ・ 児童会館人形劇クラブ指導 ・ パペットユーススクール ・ こども舞台体験プログラム「ふれアート」 ・ やまびこ座・こぐま座野外人形劇シリーズ (ピノキオ・冬の野外人形劇) 	4～7月 13回 / 5～10月 20回 6～10月 25回 6～12月 17回 / 5～12月 16回 6、7月 3回 / 10月 2回 5～3月 20回 通年 / 通年 9～2月 18回 / 7～12月 3回 5～12月 32回 6～1月 36回 6～12月 17回 5～3月 40回 / 通年 6～2月 全30回 8～1月 6回 8、2月 8回 8月 1回 (2日間) 11、12月 1回 ①7月 1回 (2日間) ②4～3月 4回 ③4～3月 24回 6～11月 随時 / 通年 40回 7～3月 28回 10月 4回 6～3月 14回 11～3月 30回、11月 1回 (3日間) 通年 / 通年 (公演時) / 通年 通年 通年 年6回 / 通年 通年
2 体験機会創出事業 (1) 地域連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 やまびこ座夏まつり ・ さっぽろアートステージ (シアターゴラウンド2020) ・ 中島児童会館協働事業 (①かもくま祭 ②資料室企画展示 ③おはなし会) ・ 元町北小学校アウトリーチ事業 ・ 読み語りの会 (2) 公演事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動協会40周年記念事業「国際こども人形劇フェスティバル」 ・ 伝統人形芝居フェスティバル 座・競演シリーズ ・ プロデュース人形劇『北海道発人形劇』公演 ・ やまびこ座プロデュース公演 ・ 第49回札幌人形劇祭 他 (3) その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形劇スタンプラリー ・ 物品販売事業 ・ 事業サポーター制度 ・ 市民ボランティア「やまびこ座たのしませ隊」 ・ こども事業課との連携事業 ・ こどもの劇場通信 ・ メール通信 他 	 
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ こども劇場の管理運営業務、貸室事業、入場料の徴収 	

こどもの劇場やまびこ座
・ こども人形劇場こぐま座

× SDGs



公１ 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収１ イベント・物品貸与等事業

他１ その他法人の目的を達成するために必要な事業

支援の拡大と持続可能な基盤づくり

事業方針

札幌市の「子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づき、子ども・若者を権利主体として捉え、明日の社会を担う若者等へ向けても含めて Youth+の必要性を広く社会へ訴求していくため、「子ども・若者の権利」に関連した事業を実施するほか、当施設とつながりのない若者への関わりについて、市民団体や個人を巻き込みながら着手する。

併せて、財団内の他部門との連携については、Youth+の居場所機能の拡充と専門性の交流を目的とした事業を行う。

重点目標

地域活動等事業

Youth+の取り組みを推進するため、活動協会内他部門や NPO・市民の方などと協働を行う。子ども・若者に関わるユースワーカーの理念を共有しながら実践を進める。

施設運営等事業

- ①Youth+の最大の強みである、「ふらっと来ることができながらも、見守りが行き届いた居場所」という特色を、施設ハードを活かした居場所事業、Youth+にアクセスしにくい人に向けた地域内居場所作りという、ふたつの視点から拡充していく。
- ②全ての子ども・若者を権利主体としてとらえ、子どもの権利条例の理解促進と、そこから発展した「若者の権利」を考えるため、オープンミーティングやフォーラムなど社会発信型の事業に着手する。
- ③システムの機能拡充およびクラウドの活用による事務執行により迅速な意思決定および新たな課題やニーズへの確に対応できる環境整備を行う。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和２年度	285,000人以上	令和元年度	279,120人(見込)
-------	------------	-------	--------------

②事業プログラム参加者総数

令和２年度	53,500人以上	令和元年度	52,250人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和２年度	96%以上	令和元年度	96.9%(見込)
-------	-------	-------	-----------

【部門目標】

①利用証の発行を受けた若者等登録者数

令和２年度	新規 15,800人以上	令和元年度	14,810人(見込)
-------	--------------	-------	-------------

②新規に相談を受けた自立支援登録者数

令和２年度	新規 400人以上	令和元年度	370人(見込)
-------	-----------	-------	----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 子ども・若者支援地域協議会の運営 相談窓口の設置 自立支援プログラム 社会体験機会創出事業 中学卒業者等に対する進路支援事業 広報・セミナー等の開催 (2) 交流促進事業 <ul style="list-style-type: none"> 居場所拡充事業 ロビーワークの実施 (3) 社会参加促進事業 <ul style="list-style-type: none"> 地域若者サポーターの獲得と協働 利用者モニタリング事業 地域事業への参加促進 社会貢献ワークショップ オープンミーティング 学習支援ボランティアの養成 社会意識ボトムアップ型 他 (4) 社会発信型事業 <ul style="list-style-type: none"> 子ども・若者の権利フォーラム 	通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 通年 1ヵ所以上の開拓 通年 随時 通年 10回以上 通年 随時 通年 随時 通年 各館1回以上 通年 2回以上 通年 41回 通年 随時 通年 3回以上 通年 通年 随時 通年 通年 通年 随時 通年 3団体 通年 12校 通年 随時 通年
2 受託事業 <ul style="list-style-type: none"> 地域若者サポートステーション事業 白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営事業 	通年 通年 随時
3 調査研究事業 <ul style="list-style-type: none"> 若者を取り巻く環境の調査 テーマを決めた調査・研究 他 	通年 随時 通年 3回
4 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> 若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務 若者施設貸室事業、物品貸出等 	通年 通年
5 その他の事業 <ul style="list-style-type: none"> キッチンカーの活用 若者の住居支援事業 学校内ユースワーク事業 視察受入と講師派遣 インターンシップ・実習生の受入れ 他 	通年 随時 通年 3団体 通年 12校 通年 随時 通年



札幌市若者支援総合センター
・札幌市若者活動センター

× SDGs



事業方針

外部のつながりを財団内へ・財団の取組を外部へ ～財団内外で必要とされる課に～

事業実施実績のもと公共団体や一般企業、野外関連団体など様々な組織とつながりや信頼関係を構築してきた。その様々な「つながり」を通して得た人材やネットワークを財団内に還元し、他部門から必要とされる企画事業課を目指す。

併せて、他部門の取組を地域社会に広げられるよう、財団内部における積極的な情報交換や業務連携を深めることにより、当課から広がる「つながり」の輪の相乗効果をねらい、地域社会の発展と財団の知名度向上を図る。

重点目標

地域活動等事業

- ①財団所有施設である強みを活かし、野外活動や、周辺フィールドを活用した自然体験活動を通じて、グループ活動を中心とした魅力あるプログラムを提供し、青少年の健全育成を行う。
- ②財団内他部門や、関連団体との横断的な連携により、自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を図る。
- ③関連 NPO 団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営を目指す。
- ④財団内や幼児向け施設の利用促進を図るべく、自然体験プログラムの提案や PR 活動を推し進め、利用につなげる。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和2年度	6,600人以上	令和元年度	6,410人(見込)
-------	----------	-------	------------

②事業プログラム参加者数(主催事業)

令和2年度	1,400人以上	令和元年度	1,540人(見込)
-------	----------	-------	------------

③参加者アンケートにおける満足度

令和2年度	93%以上	令和元年度	92%(見込)
-------	-------	-------	---------

【部門目標】

①財団内利用件数

令和2年度	30件以上	令和元年度	26件(見込)
-------	-------	-------	---------



事業内容	時期・回数
<p>1 体験機会創出事業</p> <p>自然体験活動事業</p> <p>【幼児対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のようちえん <p>【小学生対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プチリトルキャンプ ・たきの森のがっこう ・遊習塾リトルキャンプ ・遊雪塾リトルキャンプ ・児童会館キャンプ ・川のがっこう <p>【親子等対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんと過ごす週末キャンプ ・お父さんと過ごす週末キャンプ ・おためしキャンプ ・そだちあい DAY <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝野自然学園利用促進事業 <p>2 職員派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の指導業務 <p>3 施設管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝野自然学園プログラム開発 ・滝野自然学園の管理運営、貸室事業等 	 <p>5～2月 30回</p> <p>6月 1回</p> <p>5～2月 7回</p> <p>8月 2回</p> <p>3月 1回</p> <p>7～8月 4回</p> <p>6～9月 4回</p> <p>7月 1回</p> <p>7、10、2月 4回</p> <p>5月 2回</p> <p>12月 1回</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>

滝野自然学園

×
SDGs



事業方針

農業体験を中心とした体験活動を安定的に提供する

札幌市の野外教育施設として学校教育における自然体験活動機会の提供を第一義と捉え、中でも農業体験を中心とした体験学習を安定的に提供する。

また、生物教材配付の教材飼育計画の策定や飼育方法を見直し、飼育にかかる業務の軽減を図りつつ、生物教材の安定的な確保に努め、定量的な分析・統計資料を作成し、確立した運営のため調査研究を行う。

重点目標

地域活動等事業

- ①市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。
- ②地域住民との関係性を深めるための事業を実施する。

施設運営等事業

- ①小中学校をはじめとする体験学習への安定的な機会提供および学習機会を強化する。
- ②生物教材配付の生物飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。
- ③SNSを活用した小中学校に対する事前および事後学習を支援する。
- ④学びの農園（Learning Garden）実施に向けての調査研究を行う。
- ⑤部門同士が持つ強みを活かし合うことによる事業の連携強化を図る。
- ⑥特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を行う。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和2年度	11,300人以上	令和元年度	10,430人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

②事業プログラム参加者総数

令和2年度	1,100人以上	令和元年度	1,030人(見込)
-------	----------	-------	------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和2年度	大変満足 86%以上	令和元年度	85.9%(見込)
-------	------------	-------	-----------

【部門目標】

①小中学校を対象とした農業体験事業の提供（延べ参加校）


令和2年度	59校(3,200人)以上	令和元年度	56校(3,000人)(見込)
-------	---------------	-------	-----------------

②学習館入館の料金収入増

令和2年度	114,000円以上	令和元年度	65,400円(見込)
-------	------------	-------	-------------

※4～6月減免試行実施



事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・団体指導事業 ・社会的課題解決事業 ・児童会館誘致事業 ・自然環境関連フォーラム 他  (2) 施設運営等事業 <ul style="list-style-type: none"> ①体験農場 ②教材用生物の提供 ③自然観察や採取等の学習機会の提供に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・生物ふれあい隊 ④自然体験学習の提供に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・フルーツファーム ・北方ファーム ・トンボの観察会 ・自然素材のクリスマスリース作り ・新年しめ飾りづくり ・家族でわくわく貝化石観察会 ⑤情報の収集および提供に関する事業 ⑥市民の自主的な活動及び交流の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア事業 ・教育機関支援事業 ⑦自然体験や展示に関する相談業務 ⑧その他設置目的を達成するために必要な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・森と池の生き物たちを観察しよう～夏休み親子観察会～ ・教職員研修事業 ・ロビー展示 ・ロビーで簡単工作会 ・大人の学び舎 ・親子サクランボ採取とジャム作り体験 ・フルーツ・スイーツ倶楽部 ・北方スノーシュー自然観察 ・広報業務 ・調査・研究 他  	通年 通年 10月 4回 9月 1回 5～12月 延べ59校 6月 1回 小学校夏休業期間 6、10月 4回 5、7～9月 12回 8月 1回 / 11月 1回 12月 4回 / 7月 1回 通年 通年 / 通年 随時 通年 随時 8月 1回 7月 1回 通年 随時 5、2月 2回 7月 2回 9月 1回 1～3月 随時 通年 随時 通年
2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北方自然教育園の管理運営 	通年

札幌市北方自然教育園



事業方針

野外教育施設としての可能性を最大限に高めるために

蓄積してきた施設運営と事業ノウハウをもとに野外教育施設としての新たなチャレンジを続けていく。「自然との関わりが人にとって必ずプラスに作用する」という考えを念頭に置き、教育、レクリエーション、環境、子育て、観光、社会的課題の解決、医療など自然体験活動の手法が必要とされる分野との関りをさらに深め、野外教育施設としての価値を高めていく。

また、社会動向に注視し、先を見据えたプログラム開発と指導力向上、広報活動を積極的に行っていくとともに、既存の運営方法や事業内容にこだわることなく、地域性を活かした提案型の施設運営を目指していく。

重点目標

地域活動等事業

- ①施設利用の領域拡大を目指し、平日利用者向けの提供プログラムを開発する。
- ②札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムの提供を行う。

施設運営等事業

- ①自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体、家族、グループを対象としたスペシャルニーズキャンプの実践とプログラム開発を行う。
- ②冬季利用促進を目的とした事業を実施する
- ③他団体や企業との連携を強化し、利用促進に繋がる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。
- ④部門同士が持つ強みを活かし合うことによる事業の連携強化を図る。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和2年度	23,500人以上	令和元年度	22,880人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

②事業プログラム参加者総数

令和2年度	17,100人以上	令和元年度	17,050人(見込)
-------	-----------	-------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和2年度	98%以上	令和元年度	97.9%(見込)
-------	-------	-------	-----------

【部門目標】

①実践型森林環境教育の推進(参加人数)

令和2年度	1,300人以上	令和元年度	1,250人(見込)
-------	----------	-------	------------

②冬季野外活動促進(下期利用率)

令和2年度	30%以上	令和元年度	27%(見込)
-------	-------	-------	---------

①セルフモニタリング調査(実施件数)

令和2年度	350件以上	令和元年度	300件(見込)
-------	--------	-------	----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ようこそ児童会館 ・定山溪でストレッチと森歩き ・定山溪スノーシューツアー ・冬季テント泊チャレンジプラン  SYAO 提案型団体誘致事業 (2) 利用者支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関宿泊活動支援事業 ・団体指導事業 ・気づきのメッセージ ・森の観察会 ・飯ごう・羽釜ご飯体験会 ・キャンプファイヤー ・森の工作会 ・ナイトハイク ・ドラム缶風呂体験 ・石窯料理体験 ・銀河の会 ・わくわくらリー ・遊歩道クイズ (3) 地域の文化を伝え振興を図る事業 <ul style="list-style-type: none"> ・フルーツ・スイーツ倶楽部 (4) 学びの場を提供する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャルニーズキャンプ ・森の図書館 ・森の探検隊 ・昆虫博士キャンプ SYAO 昆虫博士中学生 ・社会課題解決事業  (5) 新たなライフスタイルの提案を行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ヴィレッジ・クリスマス (6) 野外教育・環境教育に携わる人材を育成する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ ・ボランティアスタッフ育成 (7) 野外での子育て支援を行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ・親子で冬キャン！！ ・親子で『コソ練』キャンプ ・ようこそファミリーキャンプ ・定山溪森のようちえん (8) その他、施設運営目的を達成するために必要な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル ・他施設・団体連携事業 ・平日利用促進事業 ・アウトドアクッキング SYAO アウトドアプレミアムクッキング ・広報、プレスリリース ・調査、研究  2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪自然の村管理業務、貸室事業、物品貸出等 	通年 5～9月 2回 2月 3回 1月 1回 通年 通年 随時 通年 随時 学校長期休業期間、日曜日 通年 随時 5～12月 / 通年 1～3月 / 7～9月 通年 随時 通年 / 5～10月 随時 9月 1回 通年 3団体 6～10月 通年 4回 6、8、10、12月 4回 8月 1回 通年 12月 通年 2月 1回 / 6、12月 2回 6、9月 2回 / 7、2月 2回 1月 1回 通年/通年 5回 通年 5回 通年 2回 通年 通年

札幌市定山溪自然の村



ONLY ONE を目指して→+ONE（プラスワン）を！

事業方針

社会情勢が目まぐるしく変化する中、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みは喫緊の課題であり、より具体的なアクションが求められている。管理業務計画書の内容を常に見直し業務の検証と評価を行い、より大きな視点での課題意識を持ち、優先順位を踏まえて施設管理及び事業実施にあたる。

また、令和2年度下半期は、大規模改修により閉館となる。これに伴い開館期間中は過密化することが予測されるため施設利用者へ向けたサービスの維持向上を最優先事項として取り組む。閉館期間中についてはリニューアルオープン後の施設利用者等への提供に向けた各種活動プログラムの研究・開発に力点を置き取り組みを進める。

併せて、施設が持つ3つの機能（自然体験の場、自然環境における集団生活の場、野外活動研修の場）を最大限に発揮して運営にあたり、地域・関係機関との連携を進めることで施設の社会的認知の向上を図る。

重点目標

地域活動等事業

パッケージドプログラムの開発を行い、団体への一部提供を行う。

施設運営等事業

- ①持続可能な社会の実現へ向けた包括的なSDGsを推進する。
- ②利用者向けプログラムの質的向上を見据えた事業を展開する。
- ③部門同士が持つ強みを活かすことによる事業の連携強化を図る。
- ④野外教育施設として市民、専門的見地から意見・助言を得ることにより、運営にニーズを反映させる。
- ⑤令和3年度の閑散期（4月、11月、12月、3月）の利用促進を図る。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和2年度	35,000人以上 ※	令和元年度	62,000人(見込)
-------	-------------	-------	-------------

②事業プログラム参加者総数

令和2年度	9,500人以上 ※	令和元年度	13,900人(見込)
-------	------------	-------	-------------

※令和2年度下半期は施設改修に伴う休館

③利用者アンケートにおける満足度

令和2年度	97%以上	令和元年度	96.5%(見込)
-------	-------	-------	-----------

【部門目標】

①利用のしやすさに対する満足度

令和2年度	88%以上	令和元年度	87.6%(見込)
-------	-------	-------	-----------

②閑散期の一般利用団体数

令和2年度	10団体以上(4月のみ)	令和元年度	18団体(4月実績)
-------	--------------	-------	------------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 青少年キャンプ事業 ・ 野外教育プログラム普及・開発事業 ・ 防災サバイバルキャンプ ・ 青少年の抱える課題解決に向けた事業 (2) 生涯学習事業 ・ 公園と連携した自然体験プログラム ・ パッケージドプログラム出張事業 ・ 地域交流事業 ・ 大人も子どもも宿泊学習 (3) 人材育成事業 ・ 指導者ワークショップ ・ ボランティアミーティング ・ インターンシップ受入れ事業 (4) 団体支援事業 ① 活動支援事業 ・ 合同説明会 ・ 合同下見会 ・ 出前授業 ② 利用促進事業 ・ 情報発信事業	通年 10月 1泊2日 9月 2回 通年 随時 通年 通年 1回 6月 1回 通年 2回程度 通年 3回程度 通年 4～10月 10回／5～8 5回 4～10月 80校 通年 随時
2 施設管理運営事業 ・ 青少年山の家管理業務 ・ 青少年山の家貸室事業、物品貸出等	通年 通年



札幌市青少年山の家

×

SDGs



公 2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

他 1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

まちの活力を高める活動の拠点～多様性に富んだ市民との共創

人と人とのネットワークの拡充を進めるため、利用者とのコミュニケーションをより密にすると同時に、社会的課題解決につなげる視点を常に持つことで相乗効果が生まれることを目指す。

併せて館内情報の再整理をおこないアクティブな情報の収集・提供を図るとともに、世界的な課題から地域課題まで情報収集の範囲を広げ、他団体間での情報共有の機会を設け、活動の活性化と潜在的活動者の顕在化を図り、協働による課題の解決につながる支援を行う。

また、コスト管理においては複合施設としての利点を生かし、デジタルツール等を活用した管理適正化、業務共通化によるコスト削減を図ることで、サービス水準の維持向上に努める。

事業方針

重点目標

地域活動等事業

次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る

施設運営等事業

男女共同参画センター事業

- ①ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う。
- ②子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。
- ③ワーク・ライフ支援を行う。

市民活動サポートセンター事業

- ①次世代活動者の掘り起こしと支援を行う。(人材養成、コーディネート)
- ②市民活動団体との協働拡充を図る。

環境プラザ事業

- ①さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。
- ②情報収集・発信を充実させる。

情報センター事業

- ①情報コンシェルジュ業務を深化させる。(エルプラザの情報発信拠点)

【共通目標】

①利用者総数

令和 2 年度	620,000 人以上	令和元年度	618,000 人(見込)
---------	-------------	-------	---------------

②事業プログラム参加者総数

令和 2 年度	70,000 人以上	令和元年度	69,000 人(見込)
---------	------------	-------	--------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和 2 年度	86%以上 (指定管理提案書より)	令和元年度	施設満足度 91% 接遇満足度 94%
---------	----------------------	-------	------------------------

数値目標

【部門目標】

- ①男女共同参画センター：男女共同参画の啓発の取組み 26 回 (令和元年度見込 42 回)
- ②市民活動サポートセンター：市民活動啓発事業の実施 600 件 (令和元年度見込 440 件)
- ③環境プラザ：環境活動の機会提供 55 回 (令和元年度見込 52 回)
- ④情報センター：SDGs の意識啓発につながる取組み 12 回 (令和元年度見込 22 回)

事業内容	時期・回数
1 市民活動振興事業 (1) 活動支援事業 [男女共同参画センター事業] ・北海道女性起業家支援ネットワーク事業 ・女性の多様な働き方窓口総合受付業務「ここシェルジュ SAPPORO」 ・女性活躍に向けた働き方改革サポート事業 ・コワーキングスペース事業 ・ジェンダーイシューに関わる事業 ・ワーク・ライフ支援事業 ・子育てや介護の環境整備事業 ・女性のための総合相談 ・男性のためのワーク・ライフ相談 ・若年層のための相談 ・性的マイノリティ電話相談業務 他 [市民活動サポートセンター事業] ・スタートアップ支援事業 ①NPO 基礎講座 ②NPO 法人設立講座 ③次世代層向け市民活動促進サポート  ・人材養成事業 ・「NPO との出会い」創出事業 マチなか×NPO ・協働・共創促進事業 ①NPO ワークショップ  ②しみサポメンバーズ ・市民活動相談 ・NPO 専門相談（税務・会計・法律） [環境プラザ事業] ・こどもエコクラブ交流会 ・コーディネート業務 ・企業タイアップ業務 ・環境教育リーダー派遣制度 ・環境保全アドバイザー派遣制度 ・環境活動団体の支援 ・講座・研修・交流会 他 <人材育成事業> ・子ども・若者のためのエンパワメント事業 ・環境教育リーダー全体会 ・環境保全アドバイザー全体会 ・相談員研修 ・指導者向け事業 他 <地域連携事業> ・環境中間施設会議北海道と北海道大学環境科学院との連携事業 他 (2) 職員派遣事業 ・男女共同参画ワークショップ事業 ・児童・生徒への学習対応業務 (3) 情報発信事業 ・情報コンシェルジュ業務 ・図書整理・管理・貸出業務 ・サロン事業 ・市民活動情報誌の発行 ・男女共同参画情報誌「りぷるさっぽろ」の発行 ・地下歩行空間「市民まちづくり活動情報コーナー」広報事業 他 2 施設管理運営事業 ・エルプラザ公共4施設の管理業務 ・エルプラザ公共4施設の貸室事業、物品貸出等	通年 通年 通年 通年／通年 5回 通年 37回／通年 24回 通年 48回／通年1回程度 通年 30回／通年 50回 ①通年 4回／②通年 3回 ③4～11月 1回 通年 複数回 通年 複数回 ①通年 4回／②通年 複数 通年 複数回／通年 12回 9月 1回 通年 15回／通年 随時 通年 80件／通年 40件 通年 20件／通年 7回 通年 4回程度 6月 1回／5月 1回 通年 複数回／通年 3回 通年 8回程度 通年 4回／通年 25回 通年 通年 5回／通年 3回 通年 3回 通年 通年 通年

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

事業方針

外部のつながりを財団内へ・財団の取組を外部へ ～財団内外で必要とされる課に～

事業実施実績のもと公共団体や一般企業、野外関連団体など様々な組織とつながりや信頼関係を構築してきた。その様々な「つながり」を通して得た人材やネットワークを財団内に還元し、他部門から必要とされる企画事業課を目指す。

併せて、他部門の取組を地域社会に広げられるよう、財団内部における積極的な情報交換や業務連携を深めることにより、当課から広がる「つながり」の輪の相乗効果をねらい、地域社会の発展と財団の知名度向上を図る。

重点目標

地域活動等事業

- ①これまで蓄積した外部組織等との関わりによる成果をリスト化し、他課への周知と活用を図る。
- ②社会の状況を的確にとらえたうえで自主事業を立ち上げ、社会課題解決に向けた取り組みを行う。
- ③財団全体の認知度向上を視野にいれ「あそぼ」等の広報活動のレベルアップに向けた取り組みを進めていく。

数値目標

【共通目標】

①事業プログラム参加者数（主催事業）

令和2年度	3,900人以上	令和元年度	3,410人(見込)
-------	----------	-------	------------

②利用者アンケートにおける満足度

令和2年度	93%以上	令和元年度	92.9%(見込)
-------	-------	-------	-----------

【部門目標】

①イベント収益総額

令和2年度	7,000万円以上	令和元年度	7,710万円(見込)
-------	-----------	-------	-------------

②各事業全体における実収益率

令和2年度	35%以上(2,800万円以上)	令和元年度	43.3%(見込)
-------	------------------	-------	-----------

③財団内他部門連携事業数

令和2年度	5回以上	令和元年度	8回(見込)
-------	------	-------	--------



Ⅶ 基金事業

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業

対象分野／子どもの健全育成事業、子どもの地域活動推進事業

- 対象／①スタートアップ事業 5人以上で構成される当該助成金に初めて申請する団体
- ②学生チャレンジ事業 3人以上の大学生（専門学校生を含む）で構成される団体
- ③ステップアップ事業 5人以上の市民および学生で構成され、過去に活動実績がある団体

【 1 期 】

活動期間／令和2年7月～令和3年2月に実施される事業

【 2 期 】

活動期間／令和2年11月～令和3年2月に実施される事業

(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

対象／こども若者支援ハウス事業

こども若者の社会的自立に向けた経済的な支援事業

こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成実績

令和元年度事業(一部)



どさんこマーブルタウン
実施団体：どさんこマーブルタウン実行委員会

～ちいさなひとのための読み聞かせオペラ～
知里幸恵と金子みずる
実施団体：accie(アッチェ)

進路、どうやって決めた？
実施団体：学生団体もちべいたー

こども基金
さっぽろ
スマイルキッズ
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

VIII 施設一覧

(1) 自主運営施設

	施設名	所在地	施設内容
1	滝野自然学園	南区滝野 106 番地	宿泊室、食堂／集会室、学習室 野外炊事場等

(2) 指定管理施設

	施設名	所在地	施設内容
1	児童会館	札幌市内 108 か所	体育室、プレイルーム等
2	こども人形劇場こぐま座	中央区中島公園 1-1	ホール
3	こどもの劇場やまびこ座	東区北 27 条東 15 丁目	ホール、工作室、研修室、 会議室
4	若者支援総合センター	中央区南 1 条東 2 丁目	活動室等
5	アカシア若者活動センター	東区北 22 条東 1 丁目	活動室、和室、音楽室 体育室等
6	ポプラ若者活動センター	白石区東札幌 2 条 6 丁目	活動室等
7	豊平若者活動センター	豊平区豊平 8 条 11 丁目	活動室、和室、体育室等
8	宮の沢若者活動センター	西区宮の沢 1 条 1 丁目	活動室、音楽スタジオ、 体育室等
9	北方自然教育園	南区白川 1814	展示室、工作室、多目的室
10	定山溪自然の村	南区定山溪	コテージ、テントサイト 野外炊事棟
11	青少年山の家	南区滝野 247	宿泊室、研修室、多目的ホール 野外炊事場等
12	男女共同参画センター	北区北 8 条西 3 丁目	研修室、会議室、料理実習室 託児室、ホール等
13	市民活動サポートセンター	同上	事務ブース、会議コーナー等
14	環境プラザ	同上	環境研修室
15	消費者センター	同上	相談窓口

(3) 受託施設

	施設名	所在地	施設内容
1	ミニ児童会館	札幌市内 92 か所	小学校内併設

IX 機構図

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図

